

平成25年 登熟期仕上げの水管理チェックポイント

- ・落水が早過ぎると、腹白・乳白粒が増加し、収量・品質が低下します。
- ・必要に応じて“走り水”をして、落水後も土壌水分を維持しましょう。

“仕上げの水管理” 三箇条

- ① 出穂が始まったら浅水管理
(または間断かんがい/走り水)
- ② 地耐力確保の地固めは原則
(表面に、わずかに足跡が付く固さ)
- ③ 落水は穂かがみ期 (出穂後25日目頃 以降)

表 登熟期後半の水田土壌水分と土壌表面状態 (平成13年、中央農試・上川農試)

落水後登熟期間 の土壌水分	水田土壌表面等の状態	収量 への影響	産米品質 への影響
pF2.5以上	作土に深い亀裂が生成、水稻根の切断が観察	×	×
pF2.4程度	作土に幅1cmくらいの亀裂多数、足跡つかない	▲	×
pF2.1~2.3	表面に小亀裂生成、わずかに足跡がつく	◎	◎
pF2.1以下	表面のみ乾燥、亀裂微、明瞭に足跡が残る	—	—

(注)◎: 好適、▲: 境界領域、×: 不適、—: 収穫機械走行に悪影響

- ◆登熟初中期に、昼夜とも高温条件が続く場合は、かんがい水の掛け流しを行い、稲体周辺の気温を下げ、玄米品質の低下を防ぎましょう。



腹白・乳白粒

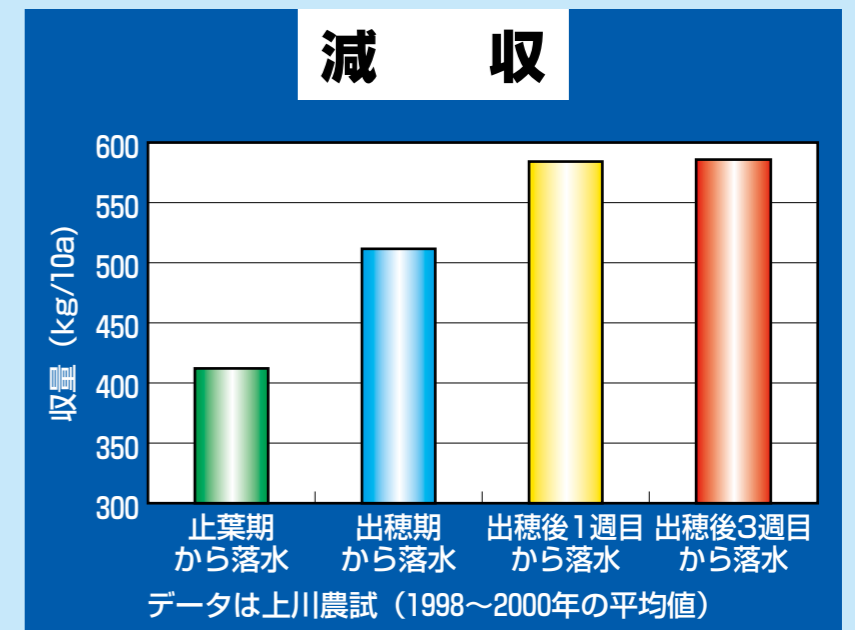
整粒

水田表面の大亀裂・干ばつの防止

- ◆水田表面に大亀裂が発生したり、干ばつ状態になると、収量が低下したり、腹白粒・乳白粒が増加して品質が低下します。落水期間中は、適宜、走り水をして水田表面の大亀裂の発生や干ばつを防ぎましょう。



溝切りと間断かんがい



大亀裂



干ばつ